

# 「人権・多様性社会」について考える その1

## ●文化や生活習慣の違いから

春日コミュニティ館の「中国の食文化を交流しよう」という講座で、講師の石井美芳さんのお話を伺いました。石井さんの祖母は9歳の時に中国に渡りましたが、戦争で国交断絶となり、70年代になってようやく帰国できました。80年代になり、中国に残っていた石井さんも14歳の時に中国帰国者三世として日本に来ることになりました。全く日本語が話せない状態で中学校に入学され、言葉だけでなく、生活習慣や食生活などの違いをなかなか理解してもらえず、つらい思いをすることも何度もあったと話されました。

## ●まずはお互いを知ることから

石井さんは分からないことをはっきりと相手に伝えることから始めたそうです。また、現在も地域活動にも積極的に参加して、自分のこと

を知ってもらう努力もされています。「自分からまず一步を踏み出すことを心がけています。お互いに違いを認め、分かり合う努力をすることによって、必ず理解ができると信じていますから。」と話されました。

## ●多様性は「他容性」から

多様性とは、まず相手のことを知り、違いを受け入れることです。心のバリアがないまちは、誰にとっても生きやすいまちだと言えるのではないのでしょうか。お互いの違いを認め合い、尊重し合える社会にしていきませんか。

